

2010/12/13

分析分科会平成22年度第2回運営委員会 議事メモ

2010年10月18日(月) 開場 13時～ 13時30分～16時00分

東京八重洲ホール 4F

出席者(順不同・敬称略):

委員長 衣笠(産総研)

委員 永岡(熊本県)、上本(東京都)、小畑(和歌山県)、尾形(山梨県)、早川(山梨県)、村岡(岡山県)、大橋(名古屋市)、工藤(秋田県)

産総研側委員・事務局 福本[途中参加]、一石、松本

(1) プログラム

本日の議事次第について衣笠委員長より説明があった。

(2) 共同研究資料(山梨県)

尾形委員、早川委員により無機分析手順書、分析結果等について説明が行われた。

・各元素の分析結果の中でAlとMnの平均値がJIS H2222:2006 に記載されている規格値の範囲外であった。取り急ぎ、運営委員の間だけでも試料の精確な秤量値を提出して、それらの秤量値と分析値の間で相関があるかどうか確認を試みる。

その他、共同研究資料原稿について以下の点を修正。

- ・まえがきの文字サイズをそろえる。
- ・質量%を「質量分率」
- ・「9質問事項」を別ページに移動。
- ・「9質問事項」の最初の質問事項を削除。

(3) 22年度共同研究について

試料発送数、データ報告数等が掲載されている1枚の配布試料について、衣笠委員長から説明がなされた。また、事務局から以下の説明がなされた。

- ・年会資料に載せない。
- ・1つの試料を同じ機関の2名で分析されたのは今回が初めて。

(4) 年会プログラム

・衣笠委員長より説明が行われた。例年と違って、二つの共同研究検討会を同じ会場で行う(無

機分析と材料分析の両方に参加した方が多いため)。

- ・他は例年と同じ要領で実施。

(5) タイムスケジュール

- ・衣笠委員長から各委員に司会の分担の依頼があり、了承された。
- ・交流会では最初に岡山県の所長が挨拶。終わりの頃に次回開催県の熊本県所長が挨拶。乾杯は産総研職員。

(6) 平成23年度分析分科会分析技術共同研究資料(熊本県)

・永岡委員からパワーポイント資料および別紙全4ページの「平成23年度分析分科会分析技術共同研究(初案)」について説明がなされた。試料はリモナイト(阿蘇黄土)。日本の脱硫剤シェアの3分の1を占めている。酸化鉄が約70%含まれている。共同研究の試料・スケジュールの詳細の他、来年度の年会・知的基盤部会の日程についても説明がなされた。

- ・リモナイト成分表に記載されている成分の合計は約90%。残りは有機成分。
- ・酸化物分析値の報告方法を永岡委員で検討。
- ・この資料の改訂版を第三回運営委員会で使用。永岡氏により改訂予定。

(7)「別紙 材料評価分析(臭素系難燃剤)集計状況」および第53回分析技術共同研究分析手順書について(産総研)

・福本委員により、材料評価分析(臭素系難燃剤)の集計状況について報告があった。報告書待ちの参加機関あり。

- ・配布試料は既に認証したCRMと同じロット。試料には(プラスチックの強度を確保するために)無機塩等が含まれている可能性あり。
- ・参加者の殆どはFP法で分析。補正を忘れていた参加者がいる。この事が各機関の報告値のばらつきの原因となっている可能性がある。
- ・WD法による分析時の問題点については埼玉県鈴木氏が検討中。(年会)当日、発表予定。

2010/12/13

- ・無機分析(Mg 合金)の集計表について、データの貼り付けの間違ひがあるので、後日修正版を各運営委員に送付する。
- ・Zスコアの分布は例年通り。 $z < 1$ の機関が3分の2程度。

(8) 運営委員名簿

- ・上本委員および工藤委員の所属部署名の修正依頼があった。

(9) その他

- ・衣笠委員長により、H24年度の年会について福島県の実情を報告された。
- ・福本委員により、計量研修センターにおける来年度の研修(有機分析コース)のアナウンスがあった。
- ・次回運営委員会: 11月24日午後4時～ メルパルク岡山

以上